

名家連ニュース

令和7年10月29日(水)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 池山 豊子
TEL/FAX(052)846-5576 NO.1064号

令和7年10月の「家族 SST 講座」のご報告

10月25日(土)同朋大学博覧館において家族 SST 講座を開催しました。参加者は、講師2名のほか、7名のご家族でした。水野良子：名家連理事の司会ではじまり、冒頭で同朋大学吉田みゆき教授から「参加者の約束事」として、次の3点を説明されました。

そして、参加者相互の和やかな雰囲気づくりのために「最近のわたし わが家」の近況を自己紹介と併せて交流しました。

1. 批判し合うのではなく
共通の目標に向けて
お互いに助け合いましょう
2. いやな時は「パス」できます
3. ここで話し合われたことは
他の場では言わないように
しましょう

参加家族からは、「親の介護のこと」、「一人暮らしの準備をしていること」、「絵画や作品展のこと」、「働けるようになると年金がもらえなくなるのでは…」と不安がっている、「親と兄弟姉妹間で財産をめぐる思惑の違いで困っている」、「心配していた病気の息子に、今は助けてもらって生活している」などの近況が紹介されました。

その中から、就労移行支援を利用しているが「今後働くにしても年金より低いかもしれない、働かないほうがいいだろうか」と迷っているという当事者に向けて、参加者で情報交換とともに本人の不安を解消する手立て、会話について役割を決めてSSTを試みました。そして息子さんに「わからないことは誰かに(支援者など)聞いてみましょう」ということになりました。

これから先も、分からないことや困ったときには、周りの人に相談することに慣れてくれば、親も安心できますよねえ～。

父が亡くなり、当事者と暮らす母と兄弟姉妹の間で相続問題について思惑が異なり、税理士も入って悩んでいる家族…。参加家族同士で役どころを決めて、肯定的な関係が築けないかどうかを探り合いましたが、なかなか難しい問題でした。

お互いに身近な問題でもあり、他人ごとではありません。「あなたはどう思っているの?」、「仲間を増やしたいの?」など、率直な話し合える関係性・必要性をヒシヒシと感じ合いました。

右図は吉田先生が「精神に障害のある人が地域で安心して暮らしていくために必要な事柄」として、わかりやすく説明していただいたものです。その中で「遊」が、お母さんたちの一番大好きな言葉のようでした。(SST 担当:堀場洋二)



～ 次回の SST 講座は、11月22日(土)13時30分より同朋大学博覧館で行なわれます ～